資料7-3

持続可能な大阪・関西万博開催にむけた行動計画（開催後報告書）資源循環・循環経済編 概要（案）

２０２５年日本国際博覧会協会
持続可能性局

2026年1月19日

©Copyright Japan Association for the 2025 World Exposition, All rights reserved.

会場運営関係の廃棄物排出量

- 廃棄物全体の排出量は**5,276.8トン**となり、推計値8,266.2トンの64％程度で、2,989.4トン下回った。
  また、来場者一人当たりの排出量（原単位）は、**181.9g/人**となり推計値293.1g/人の62％程度であった。
- リユース食器の使用、プラスチック製容器包装の削減、マイボトルの利用促進、飲食店舗による適量の食材等の準備、冷凍食品の活用などにより廃棄物の発生を抑制
- 分別後の廃棄物は、先進的な手法も活用し可能な限りリサイクルを推進（缶、びん、プラスチック類、紙類など９種で100％）

種別	BAU	削減目標				会期中廃棄物全体		リサイクル目標		リサイクル実績	
	排出量 [t]	削減量 [t]	削減率 [%]	削減後量 [t]	原単位 [g/人]	排出量 [t]	原単位 [g/人]	リサイクル量 [t]	リサイクル率 [%]	リサイクル量 [t]	リサイクル率 [%]
びん	611.5	-	-	611.5	21.7	256.9	8.9	42.8	100.0	256.9	100.0
缶	42.8	-	-	42.8	1.5	85.0	2.9	611.5	100.0	85.0	100.0
業務用缶	45.0	-	-	45.0	1.6			45.1	100.0		100.0
ペットボトル	562.8	188.2	30.3	392.4	13.9	381.9	13.2	392.5	100.0	339.1	88.8
ペットボトルキャップ	58.8			41.0	1.5	242.0	8.3	41.0	100.0	242.0	100.0
プラスチック類	554.1	139.9	25.0	415.5	14.7			415.6	100.0		100.0
発泡スチロール・発泡トレイ	5.6			4.2	0.1	3.7	0.1	4.2	100.0	3.7	100.0
段ボール	1,711.7	-	-	1,711.7	60.7	1,072.7	37.0	1,711.7	100.0	1,072.7	100.0
紙類	110.4	61.1	55.4	49.2	1.7	95.4	3.3	49.2	100.0	95.4	100.0
生ごみ（食品廃棄物）	1,501.2	321.2	21.4	1,179.9	41.8	413.8	14.3	1,179.9	100.0	318.1	76.9
廃食用油	110.4	-	-	110.4	3.9	108.4	3.7	110.4	100.0	108.4	100.0
燃やすごみ	4,181.4	721.9	17.3	3,459.5	122.7	2,428.7	83.7	94.6	2.7	25.2	1.0
堆肥化可能な食器類		-				0.7	0.0				
割り箸						6.8	0.2				
木製パレット						6.8	0.2				
紙おむつ						10.9	0.4				
燃やさないごみ・混合廃棄物	212.8	10.0	4.7	202.8	7.2	162.5	5.6	19.3	9.5	0.0	0.0
汚泥（グリストラップ）						0.7	0.0			0.2	29.6
合計	**9,708.5**	**1,442.3**	**14.9**	**8,266.2**	**293.1**	**5,276.8**	**181.9**	**4,717.8**	**57.1**	**2,546.5**	**48.3**

注：四捨五入等により数値が合わない場合がある。 BAUは、対策をしなかった場合の排出量推計値

Exposition, All rights reserved.

会場運営関係の廃棄物に係る具体的取組

リデュース・リユースにより廃棄物を最大限削減した上で、分別排出された資源のリサイクルを徹底。博覧会協会は、廃棄物種別における削減対策等をガイドラインや各種募集要領等に記載するとともに、説明会を開催し取組の実施について参加者に周知・要請

リデュース・リユース

❑ プラスチック
- マイバッグ持参呼びかけ、販売・配布する場合はエコバッグ、紙袋を優先。レジ袋の配布は禁止
- マイボトルの持参推奨、会場内で利用できる環境の整備
- EXPOフードトラックでのリユース食器の導入、生分解性プラスチック食器の導入（1エリア）
- プラスチック製等のうちわ、傘袋、ノベルティなどの配布抑制

❑ 食品
- 廃棄の少ない食材調達、食べきれる量・サイズの提供等、食品ロス削減の対策例を示すなどにより取組促進
- 売れ残りそうな食品をウェブ上で購入希望者とマッチングさせる「万博タベスケ」の提供
- 食品寄附の促進・支援

❑ その他
- マップ、チラシ、パンフレット等の電子化
- ユニフォームの持続可能性配慮（協賛による貸与、プラ以外の素材）

リサイクル

❑ 分別区分に応じたリサイクルの取組
- 燃やすごみ以外は可能な限りリサイクルを実施

❑ 社会実装の拡大が期待されるリサイクルの取組
- 難再生古紙を一般古紙とあわせてトイレットペーパーにリサイクル
- 生ごみのバイオバス化、堆肥化
- 生分解性プラスチックの堆肥化
- ペットボトルの水平リサイクル

©Copyright Japan Association for the 2025 World Exposition, All rights reserved.

会場運営関係の廃棄物に係る具体的取組（リデュース･リユースの事例）

OSAKA, KANSAI, JAPAN EXPO2025

■使い捨て買い物袋の配布対策

・来場者にマイバッグ持参の呼びかけ
・買い物袋は、エコバッグ、 手さげの紙袋を販売。 レジ袋の配布禁止

■リユース食器の導入

・使い捨て食器を多く用いるEXPOフードトラックエリアへのリユース食器の導入

■廃棄の少ない食材調達

・来場予約者数や会場内の混雑情報を活用した調達量、仕込み量の調整
・冷凍食品の活用

■マイボトルの利用促進

・来場者にマイボトル持参の呼びかけ
・給水スポットを最大70か所、マイボトル洗浄機を10台設置

■食べきれる量のメニュー提供、食べきりを呼びかけ

・ごはんの小盛りを注文できる旨を掲示
・食べきりを促す啓発資材（POP、ステッカー）設置

©Copyright Japan Association for the 2025 World Exposition, All rights reserved.

会場運営関係の廃棄物に係る具体的取組（リサイクルの事例）

■難再生古紙のリサイクル

・従来、燃やすごみに分別していた飲食物が付着した紙容器などの難再生古紙は、一般古紙とあわせてトイレットペーパーにリサイクル
・トイレットペーパーは会場内のトイレで使用

■生ごみのバイオガス化、堆肥化

・生ごみは、以下の4つの処理ルートでリサイクル
▷日本館の施設でバイオガス化（発電燃料）
▷カーボンリサイクルファクトリーでバイオガス化（e-メタン製造原料）
▷会場内のメインストックヤードに設置したコンポスト機で堆肥化
▷会場外の施設で堆肥化

■生分解性プラスチックの堆肥化

・一部のフードトラックエリアで用いた生分解性プラスチックの食器類を専用ボックスで回収
・回収後の食器類は、会場内の生ごみとあわせて会場外の施設で堆肥化

■ペットボトルの水平リサイクル

・使用済みペットボトルは、圧縮減容（ベール化）処理を実施した後、場外搬出し、水平リサイクルを実施

©Copyright Japan Association for the 2025 World Exposition, All rights reserved.

会場運営関係の廃棄物対策に係る振り返り、今後の展望

万博で実践した取り組み全体を振り返り、その成果や課題、今後の社会に活かすための展望などを取りまとめた

❑ プラスチック対策

- 大半の参加者においては、EXPO 2025 グリーンビジョンの内容に沿った運用がなされた。一部では、その意義や取組内容の理解不足、準備の遅れなどから、方針やルールに沿わないプラスチック資材の使用等が見られた。
- 参加者への周知については、ガイドライン等への記載や事前の説明会の開催などに加え、参加者の募集・契約プロセスなど、複数の機会を捉えて徹底できれば、さらに効果的であったと考えられる。

❑ 食品対策

- 店舗において、飲食の提供方法等に応じ、コスト削減にもつながる食品ロス削減対策が一定程度講じられていたものと考えられる。
- 万博タベスケの運用などのように、イベント主催者だからこそ可能な取組が重要であり、多くの参画を得るために早期に制度設計し周知を図り、事業者の方針に組み込んでもらうこと、参加者の手間が少ないスキームの構築が重要であったと考える。

❑ リサイクルの取り組み

- 缶、びん、プラスチック類、紙類、廃食用油など9種で100%リサイクルを実施した。
- 参加者が自ら廃棄物処理を手配する（独自処理）場合は、リサイクル率が低くなるケースが見られた。
- 独自処理については参加者に分別と再生利用の意識付けの徹底を図る必要があったと考える。また、独自処理はやむを得ない場合の措置とするなど限定的な取り扱いとすることも有効であったと考えられる。

©Copyright Japan Association for the 2025 World Exposition, All rights reserved.

施設、建材・設備、什器・備品等のリユースへの取組（施設設備関係）

OSAKA, KANSAI, JAPAN EXPO2025

■ 博覧会協会施設や設備等のリユースの取組について

大阪・関西万博においては、会場内に多くの施設等を建設されるとともに、膨大な量の什器・備品を使用され、これらは閉幕後に撤去されることになる中、博覧会協会では、これらについて、施設等の設計段階からリユースを考慮して建設等を進めることとした。具体的な取組のひとつとして、リユースマッチング事業を実施。「万博サーキュラーマーケット”ミャク市！”」を構築し、数多くのリユースを実現。

●カテゴリー1（施設等の移築）※ミャク市！と博覧会協会公式ウェブサイトにて公募

施設等の種類	取組内容
大屋根リング	2025年6月から11月にかけて、第1期から第3期公募を実施（約3,300m³を譲渡予定）
	北東部（約200m）を残置する方向で調整中
樹木	2025年7月から10月にかけて、ランドスケープの高木と中低木の公募を実施（高木約460本、中低木約600株を譲渡予定）
	静けさの森樹木を残置する方向で調整中
シグネチャーパビリオン	2025年8月から12月にかけて、施設の一部移築や特徴的な設備について公募を実施
その他施設	2025年8月から12月にかけて、催事場の建材等や若手建築家施設の一部移築について公募を実施

●カテゴリー2（建材・設備等のリユース）※ミャク市！にて公募

建材・設備等	2025年3月から10月にかけて12回の公募を実施し、出品数約8,700点に対し、譲渡予定数約5,400点

●カテゴリー3（什器・備品等のリユース）※ミャク市！、博覧会協会公式ウェブサイト、既存のECサイト（協賛）を併用して公募

什器・備品等	2025年10月から2026年3月まで3回の公募（出品数792件）を実施

注：本スライドの内容は2025年12月末時点のものであり、2025年度末までに整理する予定。

【公募したリユース品の例】

EARTH MART（萱屋根）

テーブルセット

ミャクミャク像

©Copyright Japan Association for the 2025 World Exposition, All rights reserved.

施設、建材・設備、什器・備品等のリユースへの取組（施設設備関係）

OSAKA, KANSAI, JAPAN EXPO2025

■ 施設の移築等の状況について

・施設の移築等については、1970年に開催された大阪万博の当時の実績を上回ることを目指し、博覧会協会が2023年度に実施した調査において移築等の実績が確認出来た「17.5館」（”全部移築を7館、”一部移築”の21館を10.5館とカウント）を目標値として設定。
・大阪・関西万博の実績値について博覧会協会で調査を行った結果、2025年12月末時点で把握している範囲では、ほぼ全部を移築する計画の施設で1館としてカウント出来る”全部移築”は5館、構造材やファサードなどの部材を移築する計画の施設であり、0.5館とカウントできる”一部移築”は8館、リース建材を使用した施設で1館とカウントできる”リース建材移築”はパビリオンタイプB、パビリオンタイプC等の博覧会協会が設置した建物や参加者のパビリオンタイプAを含めると17館となった。
・上記の状況を纏めると、大阪・関西万博における施設の移築等の実績は『26館』となり、設定した目標値を上回るものとなった。

■ リユースによる廃棄物削減量について

リユース種別		廃棄物削減量［t］
大屋根リング	リユース	1,716.0
	残置	1,443.0
樹木	リユース	471.0
	残置	1,539.0
パビリオン・施設等のリユース		410.8
建材・設備等のリユース		288.4
什器・備品等のリユース		72.1
合計		**5940.3**

【大屋根リング木材のリユースの活用例】
２０２７国際園芸博覧会における
大型モニュメントの資材として活用予定

提供：鹿島建設株式会社

注：本スライドの数値は2025年12月末日時点の譲渡予定の数量などから算定。2025年度末までに整理する予定。

©Copyright Japan Association for the 2025 World Exposition, All rights reserved.